

国際ロータリー第2610地区 2010-2011年度地区大会 報告

平成22年(2010年)10月30-31日

新湊高周波文化ホール(新湊中央文化会館)

井波庄川ロータリークラブ会長 山本武夫

第1日(30日)指導者育成セミナー・本会議1

I、ロータリー基調講演 “ロータリー財団 未来の夢計画”

2007-2010年度R財団地域コーディネーター 北 清治氏(浦和東RC)

北清治氏は、「未来の夢計画」ハンドブックを指導者に配布し、これが、これから各RCに配られ、順次、この計画を広める礎になりますと、説明されました。スライドを使い、説明されましたが、ハンドブックとスライドが一致しないために、聴講者にはどの部分の説明か、わからず、また、具体例があまりなく、難しいセミナーとなりました。しかし、帰宅して、ハンドブックを読んでもみると、その内容が見えてきました。近い将来、具体例が示されることで、もっと身近なものとなると解釈し、このセミナーの内容を、ハンドブックの序論で代用させていただきます。

ロータリー財団創設第二世紀に向けて財団のプログラムが大きく変更になりました。新しい制度は「Future Vision Plan 未来の夢計画」と呼ばれます。

本年度、2010年7月から世界531地区の内100地区(日本では6地区)が試験段階に入り、2013年7月からは世界全地区で新制度に移行します。

「未来の夢計画」には、次のような目的が掲げられています。『ロータリー財団の使命に沿って、世界の優先的ニーズに取り組み、最大の効果をもたらす』という、大変野心的な目的と言えるものです。

1. 財団の使命に沿って、プログラムと運営を簡素化すること。
2. ロータリアンが関心を寄せている世界の優先的ニーズに取り組むことによって、最大の成果が期待できるロータリアンの奉仕活動に焦点を絞ること。
3. 世界的目標と地元の目標の両方を果たすための資金を提供すること。
4. 意思決定権をさらに地区とクラブに移行することによって、地区レベルとクラブレベルで、ロータリー財団が自分たちのものであるという自覚を高めること。
5. ロータリー財団の活動に対する理解を深め、ロータリーの公共イメージを高めること。

また、「未来の夢計画」では、その計画を作成するにあたって、次の「5つの優先事項」を掲げています。

1. プログラムと運営の簡素化
2. 未来の夢計画に沿ったプログラム
3. 地区あるいはクラブレベルで「自分たちの財団」と自覚すること

4. 目標達成のための十分な資金と人材の提供

5. 計画を支える効果的な方策の開発

第一の「プログラムの簡素化」とは、6つの重点分野【主として、発展途上国を対象とした人道的プログラム】を設定し、この分野に力点を置くというものです。WF(ワールドフア
ンド)からも資金が拠出される「グローバル補助金」は、最低3万ドルという大きな規模の
プロジェクトに限定されます。分野と案件数を絞ることにより、持続的な効果のあるプロ
ジェクトを実現しようというものです。資金的に見ても、DDF(District Designated Fund
地区財団活動資金)の50%超を、このプログラムに向けることが可能なので、財団が最も力
をいれているものです。このプログラムは、複数年度にまたがる事業になり得るものです。

*6つの重点分野：

1. 平和と紛争予防・紛争解決

2. 疾病予防と治療

3. 水と衛生設備

4. 母子の健康

5. 基本的教育と識字率の向上

6. 経済と地域社会の発展

第二の「地区の裁量権の拡大」とは、従来は、DDFの最大20%が地区の裁量権の範囲(地
区補助金として)であったものが、今後は、DDFの最大50%へと増大することになったこ
とです。この資金は、地区の設定した口座に送金されてきますので、裁量権の拡大と共に、
地区の資金管理に関する責任が増大したと言えます。

この増えた地区への資金は、クラブや地区への「新地区補助金プロジェクト」を実施す
ることになります。これには、「計画年度」と「事業年度」があり、2年がかりのものとな
ります。

ロータリー財団の第二世紀はポリオを撲滅し、ロータリー平和フェロープログラムを充
実させ、6つの重点分野でロータリーが実績を上げる世紀としなければなりません。日本の
ロータリアンにとって、6つの重点分野の事業は、人道的プログラムに係わる事業が主体で
すので、これまで、国際親善奨学生やGSEなどの教育的プログラムを中心に進めてきた方
向とは、馴染みの少ないものと映るかもしれません。この財団が掲げた「未来の夢計画」
は、「ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通
じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにする」というロータリー財団の使命を元
に、「代表的な非政府組織や団体との協力関係(パートナーシップ)を通じて、大きな成果
を生む人道的なプロジェクトを実施して、ロータリーの公共イメージを高める。」という意
欲的な目標がありますので、私たちは、この高い目標に向かってチャレンジしてゆくべき
だと思います。・・・・(以下、補助金等の申請など、省略)

最後に、「未来の夢計画」の標語(Motto)を紹介します。

【世界で良いことをしよう : Doing good in the world】

II、研修

「社会奉仕について」…地区研修リーダー 近藤俊行パスト・ガバナー

近藤パスト・ガバナーは、4枚もののプリントを配布、それに沿って説明をされました。2010 - 2011年度 RI テーマ「地域を育み、大陸をつなぐ」に基づく、地区テーマ「地域に合った、オリジナルで独創的な活動をしよう」ということで、地区社会奉仕委員会は「地域での社会奉仕活動が地域を育む活動と成る様に考える」「疾病予防と治療に、ロータリアンが地域に出来る事は何か」「水と衛生設備の大切さを地域に住む人にもう一度考えてもらう」「母子の健康にロータリアンが地域に出来ることは何か」「基本的教育と識字率向上を地域に対して訴える必要が在るのでは」「経済と地域社会の発展も社会奉仕のテーマでは」ということを取り上げています。

ロータリアンの奉仕理念について、米山梅吉氏は、“The Ideal of Service”を「奉仕の理想」と訳されましたが、どちらかと言うと、“Ideal”は「理念」と言う方が適切であり、「奉仕の理念」と訳する方が理解しやすいと思われれます。また、ロータリーの二つの奉仕理念、“Service above self”と“He profits most who serves best”については、前者は、フランクリン・コリンズによって提唱され、「他人のことを思いやり、他人のために尽くす」と定義されている社会奉仕・国際奉仕を含む人道的な押し活動の理念です。また、後者は、フレディリック・シェルドンによって提唱された、「最もよく奉仕した者、最も多く報いられる」という意味の実践的な倫理原則に基づく、事業の継続的な繁栄を願う職業奉仕理念であり、ロータリー運動の本質ともいうべき職業奉仕の理念です。

社会奉仕活動の実践例は、プリントの記載の通り、様々ですが、RI 理事会は、9つの世界的課題のリストを作成しました。①危機下の児童、②障害者、③保健(医療)、④国際理解と親善、⑤識字能力と計算能力、⑥人口問題、⑦貧困と飢餓、⑧環境保全、⑨都市問題の9つです。また、ロータリーの社会奉仕活動を支える団体は、RCC(Rotary Community Corps ロータリー地域社会共同隊)と総称され、ロータリーの奉仕に対する熱意を同じくする、ロータリアン以外の人々の集まりです。提唱ロータリー・クラブの指導の下、献身的なRCC 隊員は、地元地域社会における生活の質の向上を改善するために自らの技能を生かして活動をされますが、このRCC との連携を図ることも、社会奉仕活動の推進には欠かせません。

地区内の事例をあげると、新湊の港の清掃保全協力活動、金沢のホテルを復活する活動、高岡の千保川をきれいにする活動などが挙げられます。

「職業奉仕について」…菊池龍雄パスト・ガバナー

地区では、「職業体験支援」などが行われていますが、もう一度この職業奉仕について考えてみたいと思います。人は生きるためには、着るものがないと冬は寒くて生きられませんし、食べるものがなければ生きられません。また、寝るところがなければ、生きてはいけません。基本的には、人間は一人では生きては行けません。人は社会を形成し、その中

で生きています。自分のできることはするが、必要なことを分担し、出来ないことは任せ、お互いに分業しています。そして人が出来ないと、助け合いをします。自分が出来ないことはお願いし、お互いさまで人間社会を生きています。その中では、思いやりや感謝があり、人のためにすることは気持ちも良くなります。ロータリーでは、この気持ちを強く持って、職業倫理に生かす、つまり人のためになる仕事を、役に立つという気持ちを持って行うことが大事であると言っています。自分の職業を大事にして、人様のために思いやること、集団でやるより、個人的な気持ちでやる、これが職業奉仕の本質です。

例をあげると、私の立場では、医師として、無料検診に行くとか、国境なき医師団とかは社会奉仕に属し、時間外に急患を看るとか、思いがけない時(飛行機の中の急患に遭遇など)に医者として仕事をするなどが職業奉仕にあたります。こちらが暇があってお膳立てしてするのは、大きなお世話で、職業奉仕ではありません。

また、例会に出席するのも、職業奉仕として大事な活動です。違う職業の人の話を聞くということで触れ合い、切磋琢磨し、勉強の場を頂く、そして友情を深めることも大事な活動なのです。「超我の奉仕」「四つのテスト」を唱和するのも、立派な職業奉仕なのです。

「青少年の職業体験」が活動として在りますが、このことが職業奉仕ではないと思います。職業奉仕の気持ちを持って取り組むことや、子供たちにその気持ちを伝えること、その気持ちを植え付けることが職業奉仕なのです。かつて、大企業の起業家の松下幸之助氏や本田総一郎氏、出光佐三氏は、ロータリアンとして、利益を社会環境整備に役立つよう寄付されました。奉仕団体として、職業奉仕を挙げているのはロータリークラブだけなのです。

「クラブ奉仕について - 広報の重要性 - 」高柳功パスト・ガバナー

崎山年度では、クラブ内外に対する広報の重要さを挙げておられますが、ここでは特に対外広報について述べたいと思います。

もともとロータリーでは、恥じらいとかためらいが先に出て、世間一般にアピールをしない傾向があり、「超我の奉仕」「隠れた善行」が表に出て、自分の宣伝は後ろめたい気持ちになりがちです。

また、ロータリーの活動に、投資と効果について発表せよなどと、これをビジネスモデル的に扱う意見も見られたり、新聞記事の中にも、「職業奉仕の理念の疑問」「職業奉仕の衰退」「ポリオ根絶への批判：完結しないことへの」「ロータリーは原点に帰るべき」などが見られたりします。こんな中で、広報は不要かという、No!です。ロータリーの奉仕の基本理念は「超我の奉仕」です。見返りを期待しないこと、私化のない、相手のために尽くすというロータリーの外部の奉仕活動を社会に示す必要があります。むしろ積極的にPRすべきで、無私の心を人に知ってもらうために広報活動をすべきなのです。

「ロータリー手続要覧」には、マスコミに対する接し方やロータリアンの責務が記載されています。また、お暇を見てご覧ください。2006年の調査では、ロータリーの認知度が

低いことが分かり、PR 不足が否めません。2008－2009 高柳年度では、石川富山両県の地方紙 3 紙に、RI 補助金を利用し、地区大会紹介やガバナー就任の挨拶や富山大手町 RC の設立などを全面広告を出して、PR しました。一瞬のきらめきだが、少しは PR がうまくいったのではと考えています。これを続けるには、資金の問題があります。事例ですが、「茨城新聞」には、「ロータリーのコラム」を週 1 回掲載しているそうです。そして、RI は、報道関係者を会員になってもらうべしと、言っています。

「米山記念奨学会について」…津田達雄パスト・ガバナー

今年の 7 月より、米山記念奨学会の理事になりました。地区の皆さんには、いろいろお世話になります。(資料：ロータリー米山記念奨学事業 豆辞典)

米山記念奨学会は、日本のロータリークラブ独自の組織で、1954 年にタイのソムチャード君が奨学生第 1 号で、50 年余り経過しました。奨学生数は、延べ 15776 人、100 カ国以上の出身国がありますが、90%以上がアジアです。帰国後、ロータリアンになって活躍する学友も 126 人います。

国際ロータリーには、4 つの奨学制度があります。

- ① ロータリー世界平和フェロー (R 財団)：世界平和の実現を目指して、ロータリーセンター (世界で 7 大学 6 センター：日本では国際基督教大学) で、国際関係・平和・紛争解決に関する修士課程を学ぶもの。毎年世界で 100 人が競争制によって選ばれる。
- ② 国際親善奨学生 (R 財団)：大学生以上を中心とする留学プログラムで、他国へ留学して異文化を知り、友好関係を築くことで「ロータリー親善使節」として活躍が期待される。日本では派遣が多く、受け入れが少ない。【参考：当クラブが推薦した楠本郁恵さんはこの制度】…2013-2014 年度に始まる「未来の夢計画」の補助金制度に移行・変更が予定。
- ③ 青少年交換学生 (国際ロータリー)：高校生を主とした「異文化体験」「ロータリー親善大使」を目的とする 1 年間の高校留学とホームステイ。来日学生は毎年 150 人余り (派遣学生もほぼ同数)。全体では毎年 8000-10000 人の学生が参加。【参考：事務局の阿部さんは、この制度で留学経験あり。】
- ④ 米山記念奨学生 【(財)ロータリー米山記念奨学会】

上記の 3 つとは異なり、日本独自の他地区合同奉仕活動として、在日外国人留学生の支援を行う (日本人留学生の派遣はなし)。毎年 800 人の留学生在が採用され、日本のロータリアンとの交流によって、将来、日本と世界との結ぶ懸け橋となる人材を育てます。

ロータリー米山記念奨学会の歩みについては、豆辞典の p.3-4 を参照してください。

ロータリー米山記念奨学事業について、世話クラブ・カウンセラー制度があり、奨学金による経済的支援だけでなく、ロータリーとの深い交流と精神的なケアを重視しています。

例会に参加したり、地域の奉仕活動を体験できるように、ロータリーでは奨学生とクラブとの交流を深める機会を持っています。2610 地区では、一人の米山奨学生は、3 RC を訪問することになっています。この事業は、日本最大の民間奨学事業で、奨学生は年間 800 人、事業規模は 14.6 億円です。奨学生への支給金額は、学部生が月 10 万円、大学院生が月 14 万円となっています。2005 年には、1000 人だったのが、減少しています。2610 地区でも、現在 21 人で昨年より 1 人の減。この採用にあたっては、3 年前に集まった米山記念寄付金によってまきますので、各クラブにおかれましては、何卒ご配慮いただきますよう、お願い致します。

III、本会議 1

開会は、崎山武夫ガバナーの点鐘で始まり、ゲストの RI 会長代理や特別出席者の紹介の後、ホストクラブの穴田茂新湊 RC 会長の歓迎の挨拶があり、崎山ガバナーの挨拶で、本会議が始まりました。

「RI 会長代理挨拶・強調事項」

多田宏(ひろむ)第 2 ゾーン R コーディネーター補佐 (東京神田 RC)

本日は、RI 会長レイ・クリンギンスミス夫妻の代理で、当地区大会に参加させていただき光栄です。大会プログラムには、RI 会長ならびに私の挨拶が簡単に載せてありますので、それを帰って読んでいただき、ここでは、いろんな会合での RI 会長の意思表示を、詳しく(20 分という時間の許す限りですが)述べさせていただきます。

クリンギンスミス RI 会長は、2 つの強調事項をおっしゃっておられます。まず 1 つは、「ポリオの撲滅」、もう 1 つは、「新世代の育成」です。そのためには、クラブを強化してください、ということです。そのためには、“Change of Wind 変化の風”が必要と言われました。社会が変化している時、クラブも変化していく必要があります、RI 活動も変化していかなければなりません。“Bigger より大きく” “Better より良く” “Bolder より大胆に：勇敢に：男らしく”という、3 B という変化を強調されました。クラブを強化しなければ、ロータリーが活性化されないのです。時代の変化に対応するように、クラブ会長・理事会は、前例踏襲型はやめよう、開拓精神を持とう、と。【アメリカ出身の RI 会長らしい】地区の会合では、自分の RC に持ち帰って、地区のニーズを把握して、どんどん意見を述べよう、そうしないと地区とクラブが離れてしまいます。クラブがあつて、地区があるのです。

今年度の RI テーマ「地域を育み、大陸をつなぐ」ですが、後半の「大陸をつなぐ」は、日本人にはなじまない言葉です。前半の「地域を育む」は我々が今いつも悩ませている問題です。最近は無関心層が多く、地域行事などに参加して、行動するのが少ないです。日本人で初めて 1968-69 年度 RI 会長をされた東ヶ崎潔氏(東京 RC)の“Participate 参加して行動しよう”というテーマが思い起こされます。【1982-83 年度 RI 会長に向笠廣次(むかさ・ひろじ：中津 RC)氏が 2 人目、今度 2012-13 年度 RI 会長に田中作次氏(八潮 RC)が選出さ

れています。日本人で3人目となります。】

さて、強調事項の「ポリオ撲滅」について、最近の状況は、タジキスタンでは、今まで0となって今ものが、2010年WHOの発表によると、458例の発生、ナイジェリアは、2000年に約1000例あったものが、現在は8例に激減、インドやアフガニスタン(18例)程度に、なってきました。この地域では、反政府組織も、ポリオ撲滅には協力的です。99%撲滅に近づいたのですが、後1%が残っています。【多田氏の説明は、早口だったので、このポリオについては、RJW(ロータリージャパン)のHPから引用しますので、ご参考までに。】

ポリオ撲滅に向けて始動

1979年9月、国際ロータリーは、フィリピンで、生後3か月から36か月の子ども約600万人に対して、5か年計画のポリオ免疫活動を始めました。これが、ロータリーがポリオ撲滅に取り組んだ第一歩です。

1985年、国際ロータリーでは、ロータリー創始80周年に当たって、「ポリオ・プラス計画」を発表。日本国内では、募金総額40億円を最終目標として、1986年7月から、5年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンが始まりました。日本中のロータリアンの積極的に取り組み、このキャンペーンが展開されていた1986年7月から1991年6月までの5年間で、目標額をはるかに超える約49億円の寄付金を集めることができました。

国際ロータリーでは、1989年6月までの3年間でキャンペーン期間としていましたが、この間で米貨2億4,700万ドル(約270億円)を集めました。これは目標額の2倍に相当します。

ロータリー100周年に向けて新たな展開

ロータリーが創立100周年を迎える2005年2月にまでにポリオの撲滅を実現しようと、国際ロータリーでは、2002年に、新たな「ポリオ撲滅キャンペーン」を展開しました。この時点で、ポリオは99%撲滅したといわれていましたが、残りの1%は、紛争地帯やへき地など、ワクチンを投与するのに困難な地域が多く、それまで以上に多くの資金とを必要としていました。目標額は8,000万ドル(約90億円)です。この結果、2003年6月末の時点で、誓約も含めて1億1,150万ドル(約126億円)以上が集まりました。

ポリオとの闘いを終わらせるために

2007年11月26日、国際ロータリーは、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団と協同して、世界ポリオ撲滅に必要とされる2億米ドルを投入することを発表しました。ゲイツ財団から1億ドルの補助金を受領したロータリー財団は、この時点から3年間にこれと同額の資金を調達するための募金活動を行っていくことになっています。

2009年1月、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団は、国際ロータリーに対して、さらに2億5,500万ドルを寄付。国際ロータリーではこれを受けて、2012年までにさらに1億ドル、2007年11月にスタートしたものと合わせて2億ドルの資金を集めることを表明しました。全世界のロータリアン(ロータリークラブ会員)は、「ロータリー2億ドルのチャレ

ンジ」と称し、ポリオ撲滅のための資金集めをしています。

現地でワクチン投与活動

さて、1979年、ロータリーが初めてポリオの撲滅に乗り出して以来、ロータリアンたちは、もちろんお金を集めていただけではありません。多くのロータリアンが道路もないようなへき地に分け入り、紛争地帯に赴き、実際にポリオワクチンを子どもたちに届けるための活動もしています。紛争地帯では、双方の代表者を説得してポリオワクチン投与のために一時休戦にしたり、宗教上などの理由からポリオワクチンの投与を拒む人々を説得したり、さまざまな活動をしてきました。

世界中のさまざまな地域にロータリークラブがあり、ロータリアンたちが活動をしています。それぞれの地域で、ロータリアンたちがさまざまな形で、すべての子どもたちにポリオワクチンの投与をするために努力を続けています。

さて、二つ目の「新世代の育成」についてですが、世界の若者は、先進国でも、特にフランスやスペインなど、暴徒化しやすい地域があります。RIは、9つの分野で新世代を育成しようと考えております。すなわち、①保健②ポリオプラス③保健指導④幼児教育⑤薬物依存・アルコール依存対策⑥エイズ⑦障害児教育⑧貧困プロジェクト⑨飢餓プロジェクト、です。

RI長期計画(戦略的行動計画)について、各クラブとロータリアンは持続可能な長期的計画が必要で、これが「未来の夢計画」です。クラブのサポートを強化すると、人道的奉仕を重点化します。【これは、ハンドブック p.14 の6つの重点項目です：前述】公共イメージと認知度の向上も図らなければなりません。ロータリーの活動・個々人の活動がベースとなり、事業が完遂されることがあります。シカゴの便所は、個人で作ったものではなく、ロータリアンが行政に働きかけて、作らせたものです。最後に、ポリオ撲滅までは、RIは大きな次の目標を持たないそうです。是非とも力を合わせて頑張りましょう。

大会採択・報告・表彰1

大会プログラム採択、登録委員会報告、信任状委員会報告、選挙委員会報告、地区大会決議委員会報告、前年度地区財務監査報告があり、その後、表彰の授与がありました。会員増強・拡大賞や、ロータリー財団協力や米山記念奨学会の表彰のあと、当クラブも表彰を受けました。プログラムに記載していない表彰もあり、三つ受賞をしました。一つ目は、ロータリー財団協力優秀クラブ賞(150\$以上)で、二つ目は、「100%財団の友」クラブ賞で、三つ目は、「毎年あなたも100ドルを」到達クラブ賞で、当日、受付にて、賞状額などを助田幹事と頂きました。

IV、RI 会長代理御夫妻歓迎夕食会

地区大会第1日は、崎山ガバナーの閉会点鐘の後、舞台をホテル第一イン新湊に移して、

開催されました。まさに乾杯という時に、助田幹事の下に、携帯にメールが入り、「井波の今町が火事！」ということで、急遽、御馳走も食わずに、帰参することになりました。この夕食会も、経費削減という目的から、前年の中川年度から、非公式の形をとり、以前のような地区内全 RC の会長幹事も出席する晩餐会では、なくなりました。総勢 77 名という、以前の半分近くの懇親会という形態でした。韓国から第 3710 地区朴南洙ガバナーを始め、新潟県から、第 2560 地区東山ガバナー夫妻も参加されていました。この日は、北日本新聞記事で「横山豊介会員が、文部科学大臣表彰受賞」というニュースが入っただけに、パストガバナーの皆さんから、お祝いの言葉をいくつも頂き、会長として大変嬉しく思いました。

第 2 日(31 日)本会議 2-1

開会前のオープニングアトラクションは、和田朝子舞踊研究所の皆さんの演技は、大変素晴らしく、出席者一同、感嘆の声が上がっていました。癒された気分になる小さい少女のダンスから始まり、クラシックの団体の華麗な演技もロータリアンを魅了しました。

昨日に引き続き、二日目の崎山ガバナーの開会点鐘の後、恒例のセレモニーがあり、中野清志大会実行委員長の開会の挨拶、出席者の紹介、ホストクラブ穴田茂新湊 RC 会長の歓迎の言葉、来賓の夏野元志射水市長の祝辞、崎山ガバナーのガバナー挨拶・現況報告、RI 会長代理挨拶・現況報告が、昨日に引き続き、多田宏氏からありました。

その後、採択・報告として、選挙委員会報告、大会決議委員会報告、大会決議(案)採択がありました。

崎山ガバナー現況報告

当地区の現況を報告いたします。7 月から 9 月までの実数です。会員数、7 月 1 日時点で、2655 名が、2688 名で、33 名の増、女性会員は、239 名が 236 名で 3 名減。交換学生は、9 名受け入れて、7 名派遣。米山記念奨学生は、23 名。今年計画の職業体験セミナーは、11 月 18 日、呉羽高校で。「ダメ、ぜったい運動」は集まった寄付金を、石川・富山両県庁に持って行きました。公式訪問は、あと 8 クラブ残っています。ここまで、回ってみて、各 RC がどのようなタイプのクラブに当てはまるか分析してみました。(ロータリーらしさの有無、生き生きとした活動の有無で、4 タイプに。みなさんのクラブはどちらに?)RI 会長賞、来年 3 月までに点数を評価してみて、応募してください。RI テーマ、地区テーマに、基づいて、活動を。オリジナルな事業を他の団体を巻き込むくらいにするよう、頑張ってください。

記念講演「歴史を忘れた民族は滅びる」 アサヒビール株式会社 名誉顧問 中條 高德氏

1 昨日、靖国神社の坂を上っていて、急に胸が苦しくなり、病院に行ったら、とても講演に行く状態ではないと言われましたが、折角の地区大会で皆さんとお会いできるのを楽

しみにしていたのをキャンセルするわけにはいかないと、家族の反対を押して出てきました。【控えに息子さんが待機しておられるそうです。初めは、椅子に座って講演をと準備されていましたが、これでは話はできないと、わざわざしばらくして立って、話を始められました。出身地の長野県更埴市とこの新湊が姉妹都市であるのも、無理をして出られた理由だそうです。】

さて、今国家が危うい状態です。ロータリアンに国家の安泰が必要であることを理解して頂くために、出てきました。特にこれからの若い世代を育てるためにロータリアンが活躍してもらうために一役を買い、私のこの気持ち、千波万波となって広がってくれることを期待して話を始めさせていただきます。

日本が、なぜこんな国になったか？それは皆、65年前に戦争に負けたからです。負けて、占領軍にすべて日本の優れたものを奪われてしまいました。日本は本当に優れた国でした。65年前、アジアのリーダーは、日本に学びに来ていました。インド、中国、韓国、マレーシアなどから。なぜ、日本が崩れていったか？考えてみてください。

戦争は、あってはならないが、しかし、止むを得ず戦う場合もあり得るのです。第1次世界大戦後、日本は戦勝国側に立って、戦争を止めようとしていたのです。しかし、民族差別を止めない大国、帝國的侵略(植民地政策)を止めない国に対して、例えば、韓国やアジア諸国を防ぐために日本は仕方なく戦う羽目になったのです。国家は、国民の資産を守らなければなりません。北方領土は、日ソ不可侵条約を破って、参戦したソ連が遅れを取り戻そうと、昭和20年8月15日の終戦を過ぎても、千島列島を南下し、9月に入って、不法に占領した島で、その住民は不当にも自分の土地財産を奪われてしまいました。また、竹島問題についても、昭和27年2月の当時韓国の李承晩ラインという境界線を勝手に宣言したが、日本は、国としての意思をはっきり打ち出さずにいました。これは、国家が国家としての任務を果たさなかったものです。昨今の中国漁船衝突事件などを見ていると、歯がゆくてなりません。明治維新前後のような、坂本龍馬のような、国を守るという働きをする動きが必要なのです。ロータリアンがこれを極めなければ、誰が立ち向かうのですか。

ローマ文化やマヤ文化などをみると、民族の衰亡が分かります。歴史的に見て、民族滅亡の3原則があります。①理想(夢)を失った民族は滅びる・・・何年か前に日米中韓の高校生の意識調査をしたところ、日本の高校生の夢が一番少なかったそうです。②全てを物の価値だけで捉え、心の価値で捉えない民族は滅びる・・・村上ファンドや、ホリエモンなど、お金でなんでも買えるという考えがはこびっています。③自国の歴史を見失った民族は滅びる・・・65年前、占領軍により、歴史や修身の授業を中止させられました。高校の進学校では、有利な科目を教えるために人間形成に必要な歴史の時間を削っていたという問題が発覚しました。人の見ていない所で物を盗んでもいいという発想と同じで、そういう教育をしていると思うと愕然とします。この国をどうしたらいいのでしょうか？

どうしてこうなったかを、考えましょう。500年前に戻りましょう。1492年、ロータリーも、アメリカもシカゴもなく、アメリカ大陸をコロンブスが発見しました。また、南アメリカの喜望峰をバスコダガマが発見しました。当時はまだ住む世界が狭く、先進国と言われたスペインやポルトガルが、アフリカ大陸の原住民の黒人を奴隷として、人間扱いをしませんでした。食べ物や金などと同じ扱いで、植民地政策をしました。その後、大国にオランダやイギリスが加わり、アジアを含めてすべて植民地化し、白色人種が、有色人種を支配しました。中国も、中華思想(華夷思想)という自国中心の考えをもち、万里の長城を作り北夷からの脅威を防ぎ、インドを植民地化したイギリスの東夷から守ろうとしたが、アヘン戦争で当時の清国は敗れ、国土の一部を奪われました。そういう意味では、日本だけは、他国から侵略された経験がありません。260年江戸時代が続き、鎖国政策は、日本を自給自足できる国家として確立しました。しかし、1853年浦賀沖に黒船が現れてから、状況が一変しました。そうして、アメリカと不平等な通商条約を結ぶことになりましたが、気がついてみると、対外的には、大きな流血を見ず、近代日本国家を作っていました。江戸城の無血入城をはじめ、大きな節目では、フランス革命のような国民全体を揺るがす革命ではありませんでした。

日本を古くからみると、やはり海洋国家といえます。秀吉の時代も、海を渡って行きました。朝鮮半島の向こうは、ユーラシア大陸です。明治に入って、日清・日露の戦争も朝鮮半島が火種となっています。1904-05年の日露戦争では、朝鮮半島を奪い、南下して日本を支配下において、太平洋に出たいロシアと、朝鮮半島を死守することが即、国益となる日本との世界史的意義のある凌ぎ合いです。当時、ロシアは世界1の陸軍を持ち、最強と言われたバルチック艦隊を持っていました。【とにかく、ロシアの拡張政策(日本にとっては南下政策)は、第2次世界大戦のソ連まで続いていたため、私(中條)が陸軍士官学校に入った時の第1外国語はロシア語でした。】1905年5月27日の対馬沖での日本海海戦で、もし、日本が負けていたら、特に富山などは近いですから、完全にロシア領になっていたでしょう。そのロシアも、日露戦争後、1911年ロシア革命で、ソ連になりました。

今の日本をみると、日本の指導者に国を守る：自分の国を自分で守るという気概のあるのだろうか、疑いたくなります。核などの問題には、課題もあります。沖縄の基地にしても、次善策が日米安保なのです。自民党が13年かけて決めたものを、白紙にするなど、民主党は何を考えているのか、菅や鳩山が崩してしまいました。

では、日本をどうしたらいいのでしょうか？明治維新は、日本人の「気づき」の良さの証明で、ノーベル賞ものです。リーダーが良くならなければ成功しません。日本の近代国家への移り変わりには、教育がありました。貧乏の中にも、自覚がありました。江戸時代、士農工商制度があり、リーダーになる人間は、その自覚の下、藩校で、人間学を学びました。躰はもちろん、人間の幅を広げる、精神学、奥行きをリーダー候補として備えられました。

その教えとは、リーダーの大原則「慎独」です。企業のトップや集団組織のリーダーを目指す人はぜひ覚えて頂きたい。「慎独」とは、「智・信・仁・勇・厳」と並び、組織の指揮官にもっとも要求される大切な概念です。「慎独」とは、文字通り「独り、(身を)慎む」という意味で、中国の経書(儒教の経典)『大学』の中にある、「君子は必ずその独りを慎む」という一節から生まれた言葉で、つまらない人間は、暇を持て余すとろくなことはしない、人格者であれば、誰も見ていない時でも自らの言動を慎み、恥ずべき行いをしないものだ、という意味です。【このあたりは、中條氏の著書「陸軍士官学校の人間学」より、引用】

私は、18歳の時に陸士にはいり、白い手袋、皮の長靴を履いて颯爽としていましたが、そんなときに、この「慎独」という言葉を上官から徹底的に叩き込まれました。すなわち、近い将来、指揮官として人の上に立つ将校生徒は、日常の言動を立派に律するなど当然のことであり、他人のみていない便所の中でさえ慎まなければならない、と教えられたのです。明治の人は、国家を守らないといけないから始まり、どうしたら人のために役立つかなど、修身を学び、旧制高校から、帝大に入ると全寮があり、そこから、仲間が出来、きずなが出来、リーダーになる勉強をしていきました。戦後は、反対にどうしたら出世するか、どうしたら儲かるかという事務学(人間学の反対)の勉強が先行してしまっています。

ところで、もともと、明治維新から、貧しい日本を富国強兵の下に、強い気持ちを持った明るく元気な国民になぜなっていくことができたのか?それは、絆(きずな)の強さが、彼らの中にあっただからだと確信しています。先祖を敬い、古人が遺してきた文化を大切に受け継ぎ、次の世代へと引き継いでいく。そして、田植えの季節にでもなれば、その田んぼを持つ家のもものだけでなく、隣近所に住む人々も一緒になって田植えを手伝う…。米作りという重労働の辛さを分かち合う精神が、農耕民族である日本人には、脈々と受け継がれていたのです。先祖との絆を大切にする心を経(縦)糸とすれば、田植えに代表される他者を思いやる気持ちが緯(横)糸、日本文化の神髄は、その経糸と緯糸がしっかりと組み合わせあった、丈夫な織物にたとえられます。

つまり、日本民族の特色は「恥の文化」でもあった、と言えるのです。「こんなことをすれば、ご先祖様に申し訳ない」「そんなことをしては、末代までの恥を残してしまう」「これでは、ご近所に笑われてしまう」など、その上、誰も見ていなくても「お天道さまがみてござる」と考えます。かつての日本人は、地球上に法律などなくても、公序良俗を保てる唯一の民族だったのです。

企業経営においても、トップが目指す方向性に対して、社員一人一人が好き勝手にバラバラな方向を見ていては、組織としては全く機能しないのは火を見るより明らかであり、ベクトル合わせをし、ベクトルの強さが、組織の勝利につながるのです。

最後に、国益を担う最近の政治家も大企業のトップも、あまりに自分本位が目立ち、「公」に対する考え方が薄くなっています。戦後、アメリカによる占領政策は、徹底した日本

の美質潰しであったことは間違いありません。しかし、「個」の尊厳はいくら叫んでも叫ぶ過ぎることにはない価値概念です。でも、それは「公」とのバランスで説くものであり、その主張は義務とのバランス、自由を叫ぶなら相応の責任が問われるのが世の常識です。明治近代国家の実業家、渋沢栄一はこう叫んでいました。「右手に算盤、左手に論語(道徳倫理)を」この哲学が欠落しているのが、現代日本のリーダーたちなのです。

ロータリアンの皆さん、私は日本を救う道はこの躰(教育)しかないと考えています。総じて言えば、日本国民の中でも占領政策をうのみにした団塊の世代が、もっとも「重い病」にかかっているように思えます。彼らは現在、リーダーの地位に就いていますが、間もなく退陣していく存在です。一方で、多くの若い世代が燃え始めています。この若者たちが、道徳倫理、日本人の心(恥の文化)を皆さんの手によって教育出来れば、停滞する我が国に、やがて大いなる灯がともし、「真のリーダー」として、この国を照らしてくれることを私は信じています。最後まで倒れず聞いていただきました。御清聴に感謝します。

本会議 2-2

しばらく休憩の後、米山記念奨学生や受け入れ交換学生の紹介があり、ローターアクトクラブの紹介もありました。その後、RI 会長代理所感が多田宏氏からあり、崎山ガバナーから、RI 会長代理に記念品の贈呈がありました。続いて、ガバナーノミニーの紹介があり、中尾哲雄氏が紹介され、挨拶をされました。その後、次期開催地のホストクラブ、金沢百万石 RC 西村会長エレクトの挨拶があり、「世界をみてみよう」とテーマに、2011年10月29-30日、石川県立音楽堂で開催されることが、発表されました。

大会の夕べ

場所を移して、新湊アイシン軽金属スポーツセンターにて、午後6時から開始予定が早まり、5時40分から、始まりました。地元の祭り太鼓や獅子舞が、入場を歓迎してくれました。1000名近くの入場者があり、新湊の名物、魚料理がテーブルに並べられていました。今年は、無駄をなくそうと、参加者を実数で報告させて、一人一人にお重を準備するような手筈も、大変気を配った大会作りでした。

